（事前Ｃ）

総合評価

研究課題名：海溝沿い巨大地震の地震像の即時的把握に関する研究
評議委員会
　委員長：田中正之
　委　員：岩崎俊樹、蒲生俊敬、川辺正樹、木村富士男、小泉尚嗣、泊次郎、中島映至、藤吉康志、渡辺秀文
評価年月日：平成２１年９月１８日

１．総合評価

（１）実施の可否	☑ 可	□ 否
（２）修正の必要の有無	□ 修正の必要あり	☑ 修正の必要なし

２．総合所見

平成 21 年８月の駿河湾の地震発生で明らかになった課題を踏まえれば、巨大地震の地震像を即時的に把握しようという本研究は早急に着手すべきである。

本研究で得られることが期待される成果は、マグニチュード６程度以上の、必ずしも巨大ではない地震（以下「中規模の地震」という。）に対しても適用が可能になるはずである。このため、研究成果が、海溝沿いで中規模の地震が発生した場合に「東海地震」などの巨大地震がその後に続けて発生するか否かを予測する重要な技術の１つになり得ることからも研究の意義は極めて大きい。

研究の実施にあたっては、関係機関や他の研究との連携を重視すべきであり、特に以下の点に留意が必要である。

・　地方自治体が設置している震度計では、近年、地震波形を収録できるタイプが増えてきている。このため、精度の高い成果が得られるよう、必要に応じて自治体からも地震波形を入手して研究を進めるべきである。
・　発生した地震の地震像の即時把握が、その後の地震発生評価につながるために、例えば気象研究所がこれまで培ってきた地震発生シミュレーションの入力値になるように配慮するなど、これまで蓄積してきた研究とよく連携させるべきである。